

日本作業療法士協会 60周年記念事業企画



JAOT
60th Anniversary

集まれ!未来を担う 作業療法士の学生たち!

～学生対象アンケート結果報告～

60周年記念式典・周年事業実行委員会

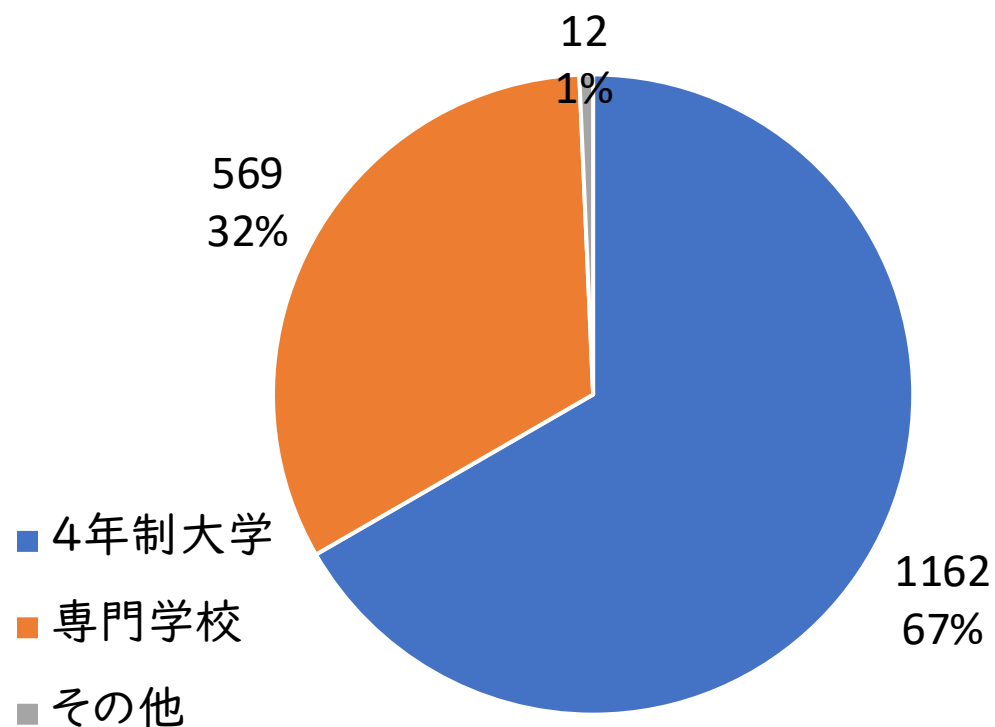
背景・目的

- 日本作業療法士協会は設立から60年を迎える。
- 60周年記念事業として、HPバナーとテーマの作成、記念式典の企画、協会員向けアンケート、イベントなど企画している。
- 本企画は、60周年事業の一環として行われたもので、作業療法の未来を担う作業療法学生を対象に実施されたアンケートである。
- 当協会員が、学生と共に「未来の作業療法士像」をイメージし、これまでの60年を次の100周年へと繋げていくことを目的とした。

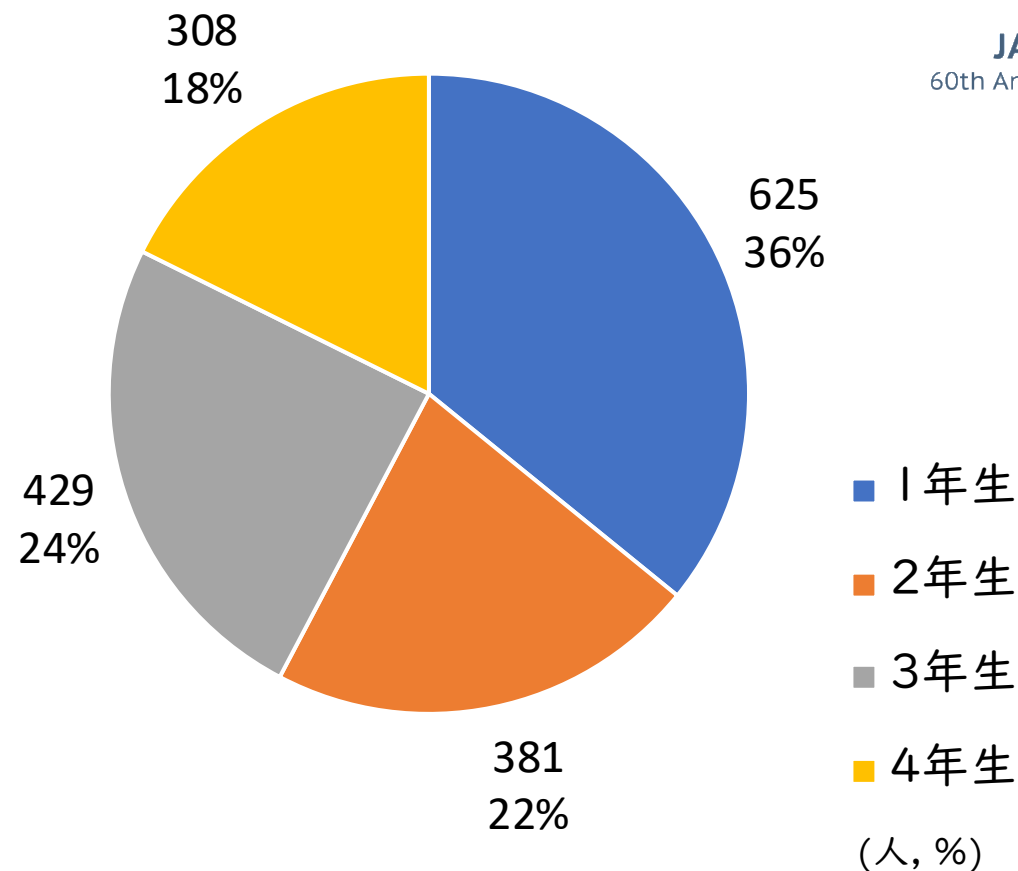
方法

- 対象：国内の作業療法養成校（210校）の所属学生
- 調査項目：
 - 基本情報（養成施設の種類、学年）
 - 入学前に作業療法に関わった経験
 - 自身の将来像、未来の作業療法士像
- 調査期間：2026年6月22日～7月17日（4週間）
- 調査方法：養成校にgoogle formを送付し学生への通達を依頼
- 分析：記述統計、自由記述はKH Coderにて質的に分析
- 倫理的配慮：アンケートにて「同意」取得、個人情報収集せず

結果：回答者の基本属性 (1,743名)



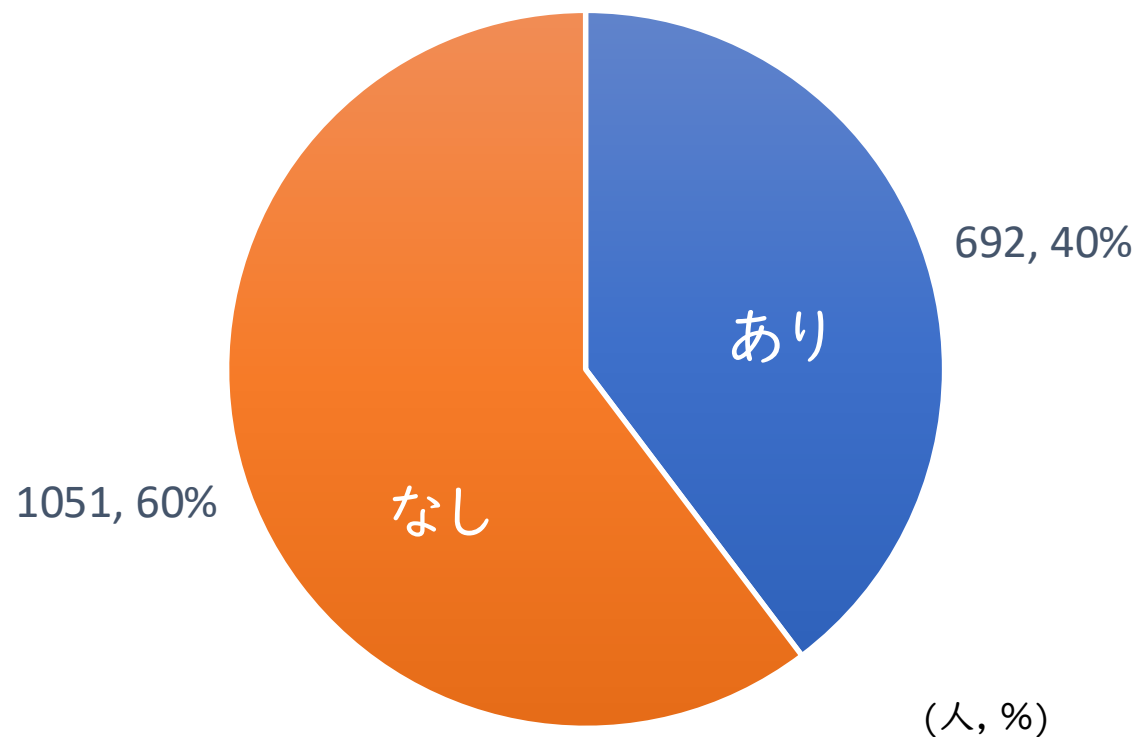
学校養成施設の種類



学年

学生自身が今後の作業療法を創っていくという感覚を持ってもらうことは
職業団体への所属意義を感じられるのではないか

結果：入学前の作業療法士との関わり



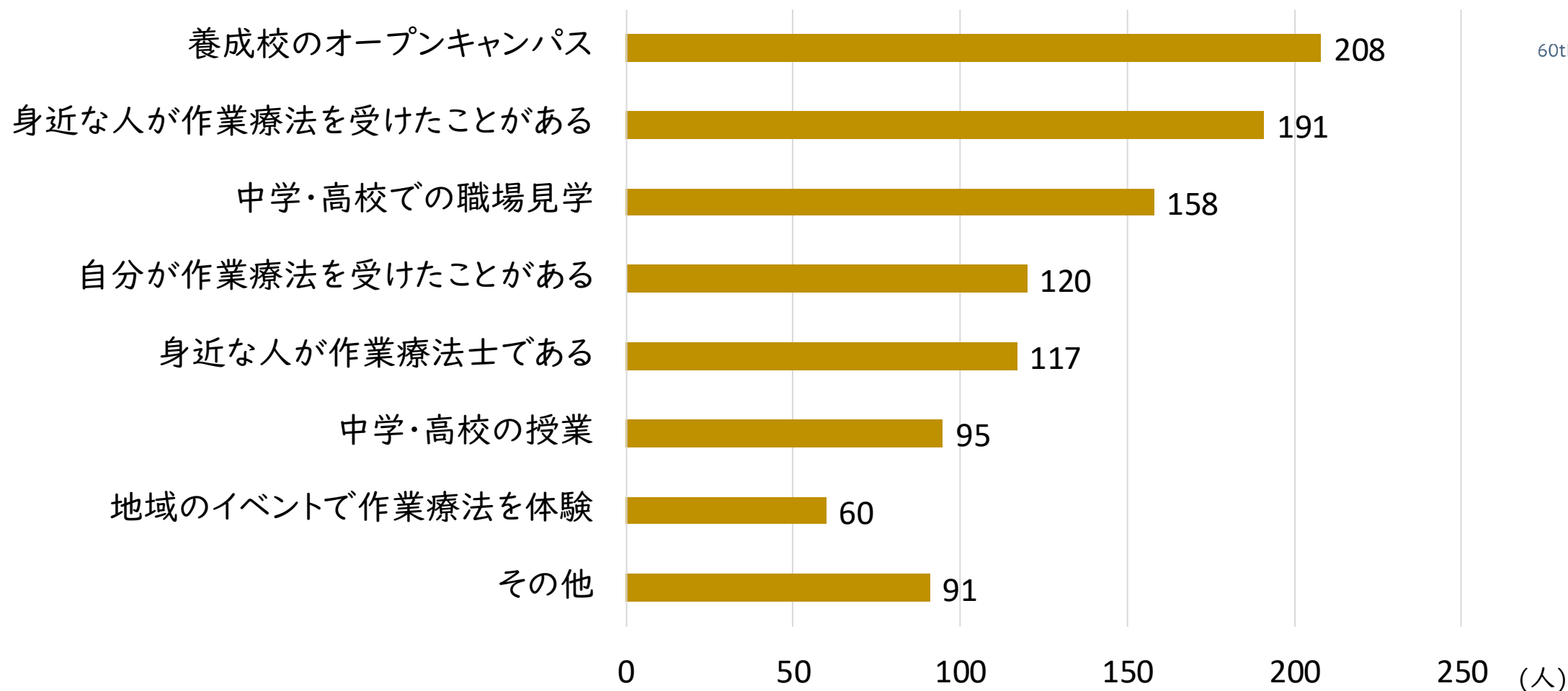
実習など養成校での学習以外で作業療法士と関わった経験があるか

約6割の学生は作業療法場面を実見した経験なく入学している
作業療法場面を見学したり理解を深めるためのリソースが重要

結果：入学前に作業療法士に関わった場面



JAOT
60th Anniversary

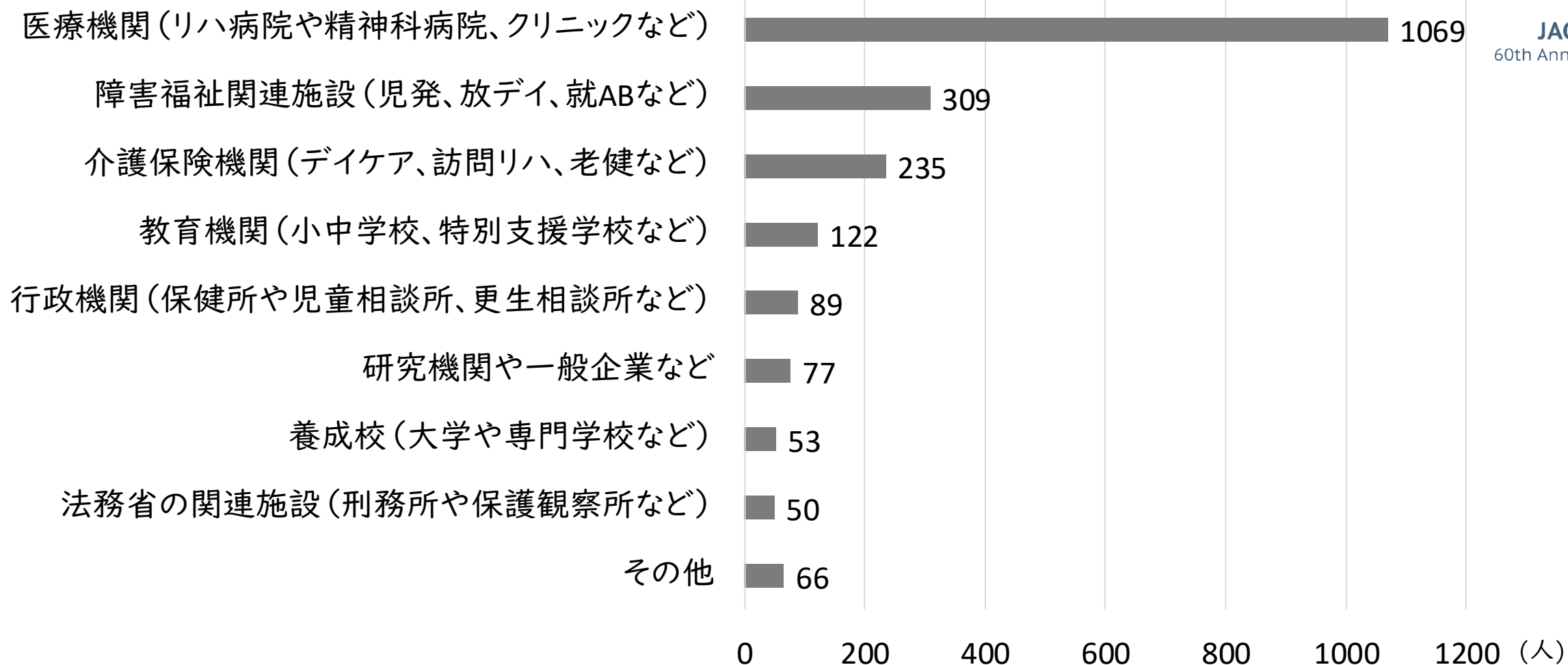


作業療法を知り目指すきっかけとして
養成校によるオープンキャンパスや模擬講義は有効であることが示唆された

結果：将来働きたい場所・領域



JAOT
60th Anniversary



医療機関への就職を希望する学生が6割と多いものの
地域（障害福祉領域、介護保険領域）や教育・行政・企業など多様化している

結果:どんな作業療法士になりたいか

(「作業」「療法」を除く)

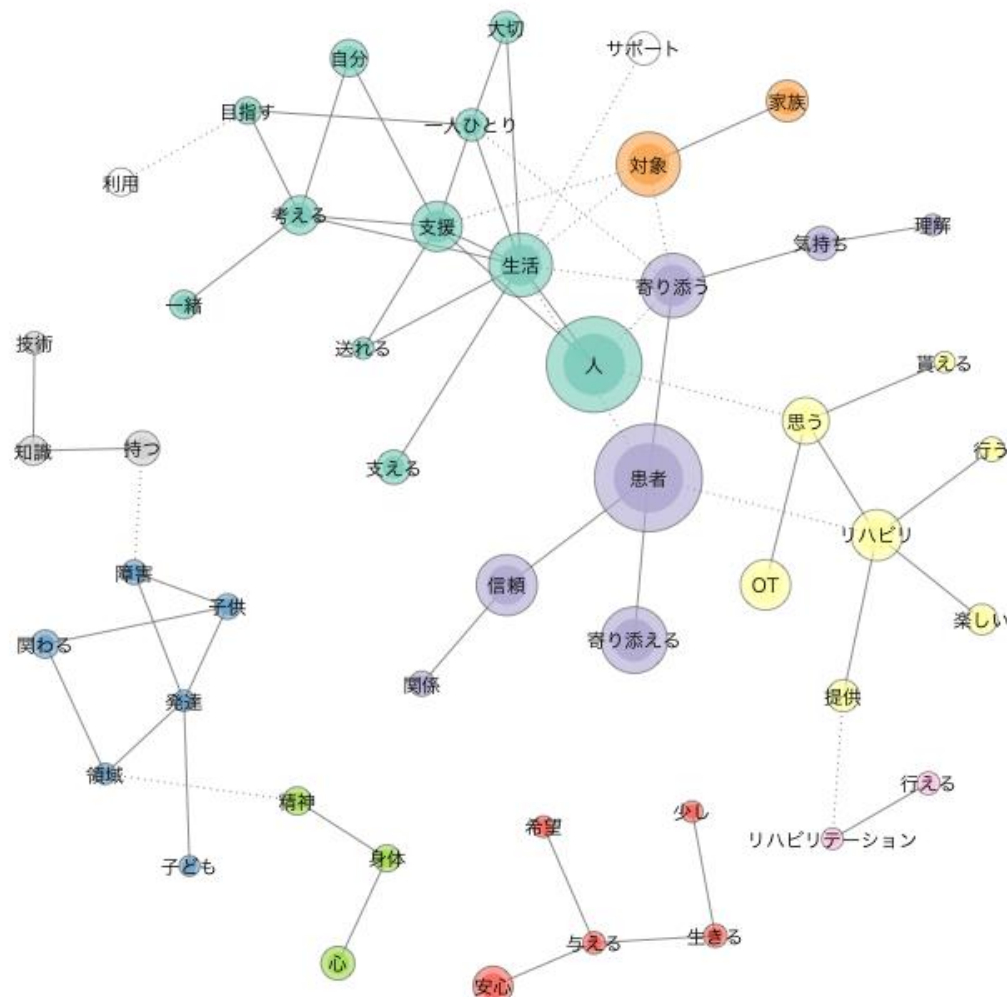
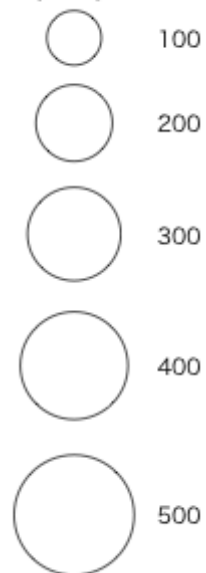


JAOT
60th Anniversary

Subgraph:



Frequency:



- 患者に寄り添い信頼関係を構築する
- 一人一人を大切にし人の生活を一緒に考え支援する
- 安心や希望を与える
- 楽しいリハビリを提供する
- 子どもや発達領域に携わる
- 知識や技術を持つ

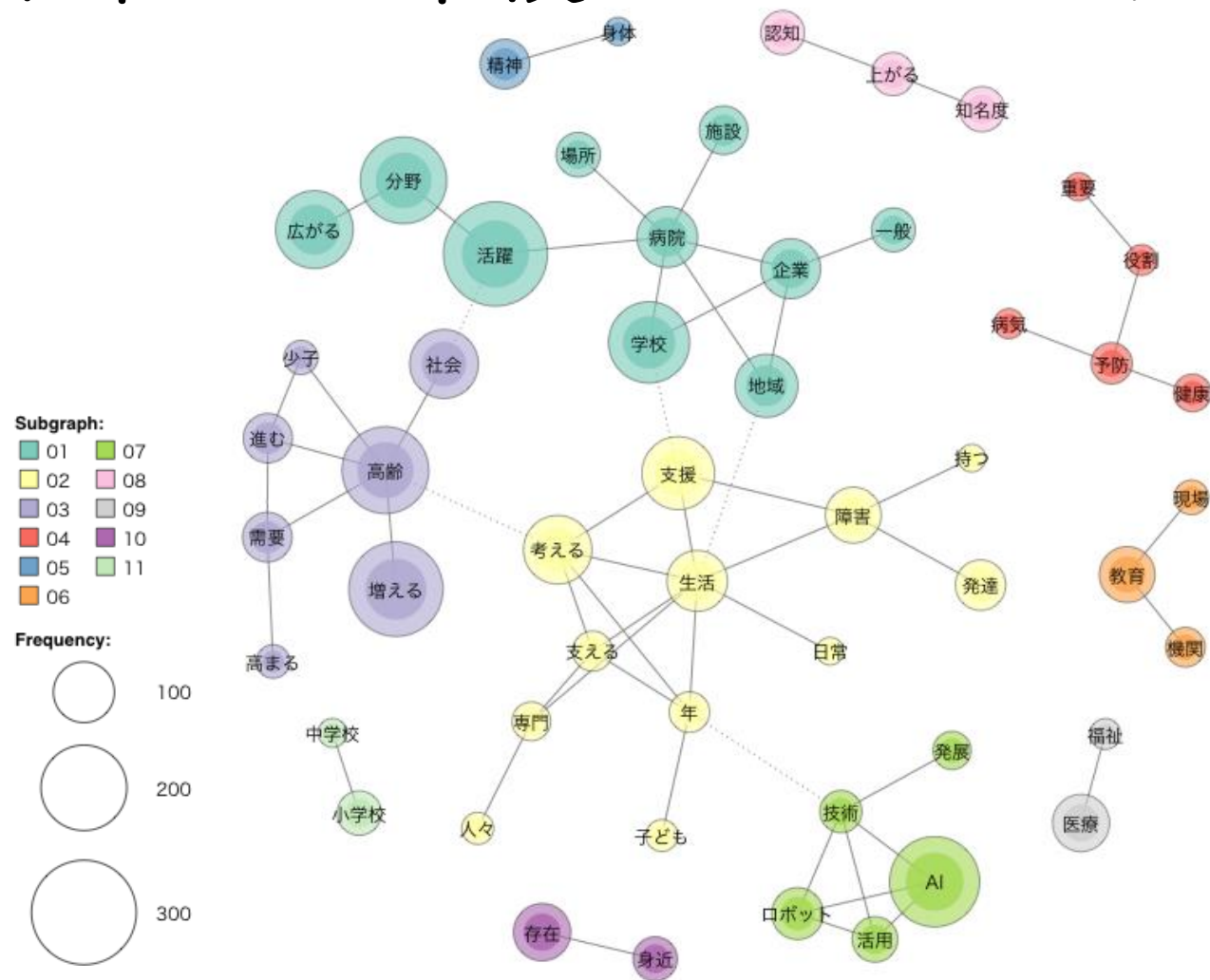
作業療法士は生活を支援し 安心や希望を与えることを重要と捉えており
そのためには知識・技術の向上は重要と学生は理解していた

結果：40年後OTはどのように活躍しているか

(「作業」「療法」「思う」を除く)



JAOT
60th Anniversary



- 医療や福祉, 教育にも活躍の場が広がる
- 少子高齢社会の需要に応える
- AIやロボット等の技術を活用している
- 生活を考え支援する専門家として活躍する
- OTの認知度が上がっていく

さまざまな社会問題に役立ていくために
今後さらに作業療法の活躍の場が広がっていくことを学生は予想していた

結語

- 60周年を機に、学生とともに「未来の作業療法士像」を描いた。
- 学生が思い描く未来には、「対象者に寄り添い、安心や希望を与え、生活を支える」という、時代が変わっても大切にしたい作業療法士の姿があった。
- そして100周年に向けて、少子高齢社会への対応、活躍の場の広がり、ロボットやAIの活用など、社会の変化に応じて進化していく姿も描かれていた。

これからも 全国の学校養成施設の教員と学生とともに
作業療法の未来を描き 創り 繋いでいきます
ご協力いただき ありがとうございます